

茶園における放射性セシウムの動態解明と対策技術に関する研究

北相地区事務所 (足柄地区事務所普及指導課・農業環境研究部)

茶の新芽(製茶する部位)における放射性セシウム(以下Cs)濃度の時期別変化について研究を行いました。その結果、一番茶後に古葉や小枝、太枝の一部を含む20cm程度の深さに刈り込む「せん枝」を行うことにより、新たに出てきた再生芽の放射性Cs濃度がせん枝を行わなかった二番茶芽や秋冬番茶芽と比較して、約50~60%低下することがわかりました(図1)。

次に、2012年1月に茶樹を分解して樹体部位別放射性Cs濃度を調査しました。その結果、一番茶を刈り取った後にせん枝を行った「せん枝区」の放射性Cs濃度は、一番茶期の値と比較して、古葉、小枝、太枝で75~90%低下していました。しかし、樹体にはまだ放射性Csが残存していることも明らかになりました(図2)。

また、茶園土壌に含まれる放射性Csは、表層から1cm以内に集中して存在していることがわかりました(図3)。

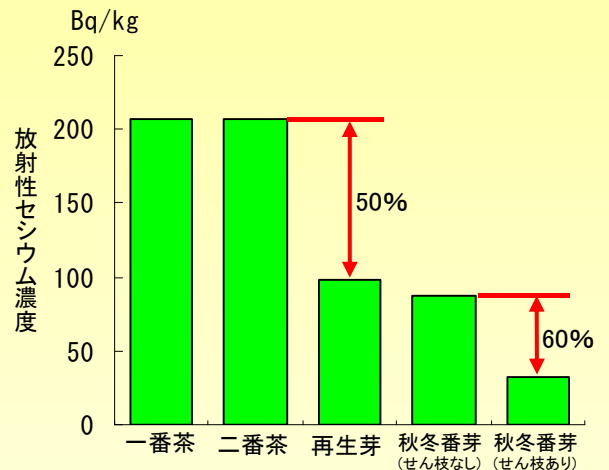


図1 新芽の放射性Cs濃度の推移

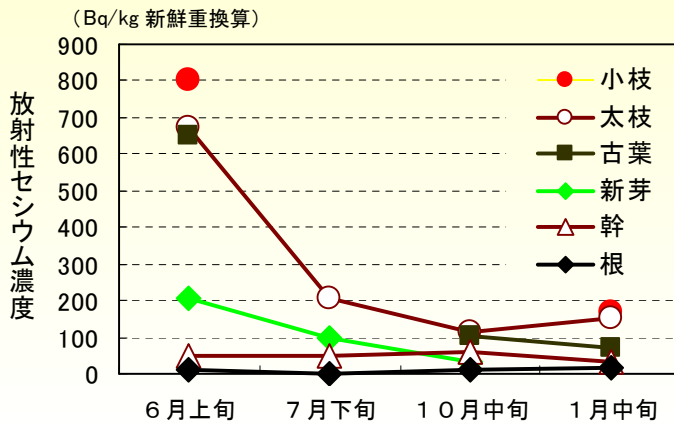


図2 樹体部位別放射性Cs濃度の推移

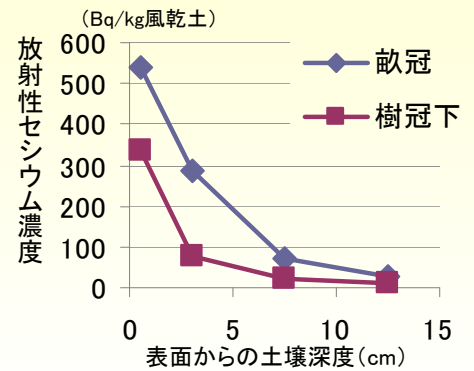


図3 茶園土壌中の放射性Csの分布

第57回全日本花卉品種審査会パンジー・ビオラ(秋花壇)審査会が開催されました

果樹花き研究部

11月8日に技術センターほ場において、第57回全日本花卉品種審査会パンジー・ビオラ(秋花壇)審査会が開催されました。

これは社団法人 日本種苗協会の委託を受けて、当技術センターが栽培管理試験を行っているもので、今回は国内種苗会社5社から、パンジー・ビオラ、計22品種が出品されました。

審査当日は天候に恵まれ、良好なコンディションで開催することができました。審査は(独)農研機構花き研究所、各県の試験研究担当者、各種苗会社の代表者等で行われ、入賞した品種・系統は株張り、揃いが良く、輪数も多く、地表を被うように咲き、遠くからも見栄えがするものでした。特に上位のものはシンプルな色合いでしたが、「花壇としての良さ」が評価されました。



審査会の様子



なごみももか ふあんふあん

<審査結果>

- | | | | |
|-----|---------|-----------|------------|
| 1等特 | なごみももか | ふあんふあん | (株)ムラカミシード |
| 2等 | SK0-812 | | (株)サカタのタネ |
| 2等 | みるくももか | | (株)ムラカミシード |
| 2等 | SK0-837 | | (株)サカタのタネ |
| 3等 | SK9-801 | | (株)サカタのタネ |
| 3等 | ソルベXP | ココナツデュエット | (株)ミヨシ |